

①北日本新聞八月七日付けの「被爆体験継承 模索続く」の記事を読んで

出町中学校

三年

今庄いましろう

由佳ゆつか

「ノーモア・ヒバクシヤ」この言葉は私

たちに強く訴え続けてくれている。戦後七十

年の今、被爆者の数がピーク時の二分の一以

下になり、平均年齢は初めて八十歳を超えた

ぞうだ。被爆者の高齢化が進んでいる。つま

り、被爆体験をされた方が減っているという

ことだ。ノーモア・ヒバクシヤ。この言葉

の意味をこれから訴え続けなければならな

い。

私は、四月に修学旅行で原爆ドームを訪れ

た。広島は戦後七十年は思えないほど、

緑が多くて平和だ。実際、広島は平和

都市と呼ばれている。私は、語り部さんから

被爆体験について聞いていた。語り部さんの話

本や教科書で習ったことは、一つもなかっ

学校で習うことができないことを聞くことができたのは被爆者の方のおかげだ。私だ。ら被爆のことは思い出したくない。しかし、語り部さんは戦争を二度と起こしたらいけないという思いで、私たちのような戦争について知らない世代に語り伝えてくれる。被爆者が高齢化している今、被爆の体験を継承していかねばならない。記事の中で、九州大大学院の直野章子准教授は、被爆者に代わることができないが、被爆者がどうなり代わるべきか、その話を自分はどう受け止めたのか、を他者に伝えることはできるかと語る。私にはこの言葉と同じ言葉を語り部さんから聞いた。被爆体験を継承することも大切だが一人でも多くの人に考えを伝えることも必要だと思ふ。

八月六日、原爆死没者慰霊式・平和祈念式^レがあった。テレビで、原爆慰霊碑^レの手を合わせる人々がたかさん映^っていた。その人々の姿は、目に焼きついた。戦争を起すの

も核兵器を使用するのにも私たち人間だ。このことを忘れずに他人の問題ではなくて自分の問題として考えていきたい。